

## 多治見高校生の見学会

平成15年11月14日、岐阜県立多治見高等学校2年生の校外研修の一環としてセラミックス基盤工学研究センターの見学会が実施されました。はじめに、講義室で高橋実センター長から全体の説明があり、次に各研究グループの教官から研究の内容についての簡単な説明がありました。その後、実験室等で見学が行われました。終了後、高校生から次のような感想が寄せられました。

○これまで多治見市民でありながら陶器にはあまり興味がなかったけど、新素材としてのセラミックスを知った時、とても面白く思えてきました。いろいろ身近なところから、こんなに面白いものにとり着けると知って、とても楽しかったです。

○実際に研究室の様子などを見ることができ、中の施設や雰囲気が少しでも分かったので良かったです。特に環境素材研究が心に残っていて、どのようにコストを減らして外国製のものに対抗できる製品にするかの研究や、新しい長所を持った素材の開発などとても実用性の高い研究をしておられ、そういう研究もいいなと思いました。

○複合機能研究では、自然界に人間が追いつこうとする本来の研究の姿が見られてとても興味深かった。

○X線解析では丁寧に説明してくださり、またX線装置を実際に見せてもらえ、良かったです。

○一番興味を引かれたのは、インテリジェントプロセス設計研究です。「セラミックス多孔体は軽く、ゴミから作ることができる」という理想的な物質を作っているところが一番の魅力でした。身近にある物から優れた物を作り出すということは難しく、なかなか思いつかないことなので、そういう発想を学んで日常生活にも生かせるいいと思いました。

○僕はこの研究センターを見るまで、電子とかそういう方面に進もうとずっと思っていたけど、ここを見て、少し考えが変わりました、4つの研究を見せてもらって特に面白いと感じたのは、不用物を粉々にしたものとゼリーの元を入れてセラミックスを作るというものです。原料でお金がかかるのはゼリーの元だけというのは低コスト化でき、すごいと思いました。

○軽いタイルに感動した。ゴミからタイルができるのはすごいと思った。このタイルが使われるようになったら、かなりのゴミが減ったり、ダイオキシンが減ったり、また日本のタイル業界などが復活するだろうと思った。

○この地域ではセラミックスが盛んだから興味を持ちました。焼かないでセラミックスを作るというのが不思議でした。また、ぐねぐねと曲がる石が自然界に存在することにすごびっくりしました。

